

施策番号 5-1-1	施策名 徹底した情報共有と町民参加の促進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり			
		政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり			
	主管課	政策推進課	課長名	石田 哲	内線	225
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
住民と行政が情報共有し、主体的なまちづくりへの参加を促進します。		町民	・町民と行政との情報共有を行い、まちづくりに自発的に参加してもらう				町民のまちづくりへの参加意識を高め、町民が主役となったまちづくりを進める
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度(予想)	2022年度目標
① 行政情報の公開や説明責任が果たされていると思う割合	住民意識調査	%	90.6	71.8	71.6	90.0	90.0%以上
② 町ホームページのサイトへの訪問者の数(セッション数)	1日あたりの訪問者数の平均	回	406	512	873.5	900	500回以上
③							
④							
成果指標設定の考え方	①策定時の90.6%は従来手法(「どちらでもない」を含む5択から、「どちらでもない」の回答を引いて再計算したものである)での調査結果であり、新手法(「どちらでもない」の選択肢を含まない4択)においても、同水準を目指すもの。 ②策定時の数値から、2割以上の増を目指すもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算
施策事業費(千円)	23,915	29,209	23,689
人工数(業務量)	2	2	2

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	ホームページのリニューアル及び新型コロナウイルスの影響により、ホームページのアクセス数は大きく増加した。(①は横ばい)
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	巡回型めむろ未来ミーティングについては、2019年度から町長班・副町長班に分け回数を増やし、町民が参加しやすい取り組みを開始したが、2020年度は新型コロナウイルスの影響により、中止となった。オンラインやLINEの活用など、withコロナを想定した手法を強化していく必要がある。
(2) 施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	広報事業 広聴事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●巡回型のめむろ未来ミーティングは、新型コロナウイルスの影響により中止となった。団体別についても、実施回数は大幅に減少した。 ●長年の懸案事項であった、農村部の光ファイバー整備について、民間事業者が整備し、町が負担金を支出する形で整備することになった。 ●新たな広報手段として、LINEの公式アカウントを作成することとした。(令和3年5月開始)		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	≪施策を取り巻く状況≫ 新型コロナウイルスの影響により、非接触型・非対面型の情報共有・町民参加手段が求められている。 ≪今後の予測≫ LINEなど、時代にあわせてSNSなど情報を入手する手段を拡大していくことが成果の向上につながるものとする。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・リニューアル後のホームページに関する意見が多く、更なる改良が必要である。 ・GIGAスクール構想とも関連し、町内全域における早期のブロードバンド化を求める声が多い。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙では、詳細かつタイムリーな情報を伝えきれないため、ホームページとの連動が必要である。 ・LINEについては、町民との情報共有に有効な手段であり、町民視点での全庁的な活用を進めていく。 ・オンライン形式のめぐる未来ミーティングなど、時代に合わせた手法を実施していく。 ・農村部ブロードバンドについては、民設民営での整備に着手しているが、早期の供用開始に向けて、協議調整を進めていく。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	農村部光ファイバー整備事業や新たな広報手段(SNS)を実施する等、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	公式LINEでの発信はタイムリーで情報が早く、評価できる。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	・情報発信や掲示板について、すまいるボードなどアナログ的な方法も残してもらいたい。 ・災害などの緊急時にすまいるボードを活用できるとよいと思う。 ・LINEはタイムリーな配信、YOUTUBEはアーカイブ配信など、それぞれのメリットを生かしていくべきではないか。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				